

実践報告

総合的な学習の時間導入期の指導の実践

浦郷 淳*

Practice of Guidance in the Introduction Period for Integrated Studies

Atsushi URAGOU*

【要約】

本研究においては、「何ができるのか」という視点で総合的な学習の時間を見た時に、総合的な学習の時間の導入期である3年生を対象に、どのような単元計画を構成して指導すれば、身に付けさせたい資質や能力が身についていくのかという点を明らかにすることを目的とする。この中でも特に、「質の高い思考力・情報活用能力」のうち、情報活用能力の育成を重視した単元計画・指導を行い、児童の学びの姿を追っていった。

【キーワード】

総合的な学習の時間、導入期、情報活用能力

1. 問題の所在と研究の目的

平成26年3月31日、文部科学省は「育成すべき資質・能力を踏まえた教育目標・内容と評価の在り方に関する検討会— 論点整理—¹⁾」(以下、「論点整理」という。)をとりまとめた。この「論点整理」のポイントとして天笠は次の3点を示している²⁾。

- (1) 学習指導要領について、育成すべき資質・能力を起点として見直し、改善を図る必要がある。
- (2) 「児童生徒に育成すべき資質・能力」を明確化した上で各教科等の教育目標・内容を扱う必要がある。
- (3) 効果的な教育課程への改善には、評価の基準を「何を知っているか」ととどめず、「何ができるか」への改善する必要がある。

その上で、『論点整理』がめざす学習指導要領改訂の姿として、「生きる力の再吟味、内容ベースカリキュラムから、資質・能力ベースカリキュラムへ、学習指導要領総則の見直し、カリキュラムマネジメントのすすめ」を提示している³⁾。

この「論点整理」が、「時期学習指導要領に向けての基礎的な資料をうることを目的に」行われ、「今後、各論点について更に検討を深めた上で、次期学習指導要領の枠組みづくりに向けた議論に生かしたい。」という点をふまえると、これからの総合的な学習の時間の実践においても無視することはできない資料といえよう。

その上で、上述した3つの観点を総合的な学習の時間の現状の立場で整理すると次のようになる。まず、(1)については、学習指導要領⁴⁾第5章総合的な学習の時間、第3の1において、「育てようとする資質や能力及び態度」について全体計画及び年間計画において作成上求められているものであり、現行の学習指導要領においても求められている項目といえよう。次に、(2)においても、(1)同様、「育てようとする資質や能力及び態度」は明確化された上で、総合的な学習の時間の教育目標・内容を扱うよ

*佐賀大学教育学部附属小学校

う学習指導要領にも示されており、現行学習指導要領においても求めているものである。最後に、(3)については、評価の基準性についてのものであり、単元及び評価の観点を各学校で定めることができる現状にあっては、どの学校に置いても充足できているとはいえない現状が想定される。つまりは、総合的な学習の時間の時間の評価において、「何ができるか」といった基準を持たせることは今後求められることと想定される。

さて、そのような「何ができるか」といった曖昧な文言において基準性を求めようとするときに、これまでの総合的な学習の時間においてどのような資質・能力が育ってきたのかということは明らかにしておく必要がある。日本生活科・総合的学習教育学会、総合的な学習の時間で育った力についての調査プロジェクトの調査概要報告⁵（以下「プロジェクト報告」という。）によると、小学校の調査結果においては次の4点が形成された能力として示された。1つは、「質の高い思考力・情報活用能力」である。2つめは、「協同的な問題解決能力」である。3つめは、「地域社会へと貢献しようとする意識」である。最後は、「新しい社会的課題へ挑戦する意欲」である。今後の総合的な学習の時間において「何ができるか」といった基準性を求めるとき、この4点については考慮する必要がある。

以上のような点をふまえ、総合的な学習の時間を取り巻く状況に置いては、現行の学習指導要領において、全体計画から評価までの一連の流れが示され、その中で育ってきた力についても明らかにされつつある。そして今後はその中で「何ができるか」ということを明らかにしていく必要があるといえる。しかし、この「何ができるのか」ということを明らかにしていくときに、総合的な学習の時間の始まる3年生の学習については、何を出発点とし、何をできるようにすればいいのかということは具体的にされているとはいえない。

そこで、本研究においては、「何ができるのか」という視点で総合的な学習の時間を見た時に、「プロジェクト報告」で示されたような基準を到達点としてまずおく。その上で、総合的な学習の時間の導入期である3年生を対象に、どのような単元計画を構成して指導すれば、「プロジェクト報告」で明らかになったような能力が身についていくのかという点を明らかにすることを目的とする。この中でも特に、「プロジェクト報告」でも1つめに示されていた「質の高い思考力・情報活用能力」のうち、情報活用能力の育成を重視した単元計画・指導を行い、児童の学びの姿を追うこととする。

2. 研究の概要

(1) 対象とする学級と単元構成の概要

本研究においては、佐賀大学文化教育学部附属小学校の3年生1クラスを対象とする。児童は、35名であり、研究の実施時期は、平成26年の5月末から10月までの実践を対象とする。

単元構成については、次のようにすることとした。第1に、学年でのカリキュラムを基本とすること。第2に、各教科・領域等の学習内容を総合的な学習の時間の学習に活かせるように工夫すること。そして最後に、情報活用能力という観点での工夫ができるようにすることである。

(2) 本研究の評価について

本研究の評価については、「プロジェクト報告」で用いられている質問項目を援用し、児童に行ったアンケートの結果を「プロジェクト報告」と比較することによって行うこととした。

以上のような2つの点から、単元計画、指導の実際、評価の側面のそれぞれを示すこととした。

3. 研究の実践

(1) 単元計画

単元構成については、学年でのカリキュラムを基本とすること。各教科・領域等の学習内容を総合的な学習の時間の学習に活かせるように工夫すること。情報活用能力という観点での工夫ができるようにするという3点をもとに考えていくことにした。順に研究の実践として示す。

まず、基本となる学年カリキュラムである。佐賀大学文化教育学部附属小学校3年生の前期（9月まで）の総合的な学習の時間の指導計画は図1のようになっていた。本校では、この計画をもとに、各学級担任が単元を構成し、指導を行うことができるようになっている。概括的な指導計画であるため、担任で設定できる計画が多く、各教科・領域等の学習内容と情報活用能力の視点とを組み込んだ単元の作成を行うこととした。そこで、本学級の総合的な学習の時間で取り組むにあたっての目標や育てたい資質や能力及び態度、学習課題、学習対象、学習事項、学習活動を図2のように設定した。また、学習テーマについては、社会科での学習を基盤とすることと位置づけ、児童の興味・関心を出発点とすることとした。

さらに、情報を整理・処理する能力を高めるために、情報活用能力の視点を図3のように規定し、それを達成する一つの手立てとして思考ツール⁶を用いることとした。さらにその思考ツールについても、教科・領域等を通して活用することとした。

しゃちっこ学習について、学んだり調べたりしよう①「どんな事に興味があるかな。学んだり調べたりすることを見つけよう」

- ・ オリエンテーション
- ・ 「やってみよう」リサーチ活動
- ・ 「やってみよう」の内容や方法について調べよう。
- ・ 「やってみよう」を紹介しよう。

図1 前期指導計画

目標	自ら課題を見付け、対象に主体的に関わっていく中で、身に付けた様々な学び方を活かした学習を協同的に取り組むことができる。
育てたい資質や能力及び態度	○自ら課題を焦点化・明確化できる能力 ○相手意識を持った行動ができる態度 ○情報を条件に応じて収集・選択・活用する能力 ○様々な方法で表現できる能力
総合的な学習の時間(前期)の学習課題・学習対象・学習事項	
学習課題	学校の周りのよさを伝える
学習対象	学校の周りにある施設やそこで働く人々
学習事項	学校の周りの施設の特徴やそのよさ 学校の周りの施設で働く人々の思い
学習活動	学校の周りの様々なよさを発信する 発信する活動を通して、総合的な学習での学び方を身に付ける。

図2 クラスで設定した単元の概要

- 情報を手に入れる能力を高める。
 - ・ 直接取材
 - ・ 読書量の確保
 - ・ インターネットの活用
- 情報を整理する能力を高める。
 - ・ 思考ツール
- 情報を処理する能力を高める。
 - ・ パソコン技能の向上
- 情報を発信する能力を高める。
 - ・ パンフレット作り
 - ・ プレゼンテーション
- 情報活用の可能性を知る。
 - ・ 様々なソフトの体験
 - ・ プログラミン

図3 情報活用能力の視点

(2) 総合的な学習の時間の実際

総合的な学習の時間の単元のスタートを社会の地域、地図学習の単元が終わった6月頃とした。そのため、オリエンテーションを5月の下旬に行い、まず、総合的な学習の時間とは何を勉強するのかということや、自分たちが身に付けたい力を図4のような形で全員で確認した。



図4 自分たちが身に付けたい力を整理する時に用いたワークシート

このワークシートでは、自分たちがこれまで持っている力を書き出させておいたものを、フィッシュボーンを用いて整理をおこなった。このフィッシュボーンの形にするまでに、児童の中ではウェブイングで思考を広げたり、Xチャート、Yチャートを用いて整理をしたりする姿も見られた。また、ツリー型でもあるように、自分で整理の方法を考える児童の姿も見られた。その結果、図5にあるような、「身につけたい力」を設定し、今年度の総合的な学習の時間の出発点とした。

そのような身につけたい力を決定した後、テーマを決めていった。先述した通り、社会での学びを出発点とするため、導入段階で、自分たちで社会の時間に作成した地図を提示（図6）し、学校のまわりのことについて様々な気づきを出した。

自分たちが作成した地図をもとにしたとき、「学校のまわりの良いところはどこか？」と投げかけた。児童は、生活科でのまち探検の経験もあるため、幾つかの施設。幾つかのポイントを挙げることができた。しかし、図6でも明らかなように、個人の情報量によってその差が大きいことや身につけた地図で表す力についても差が大きいことで位置が正確でないこと。さらにはそのおすすめの理由まで問うと具体的に示すことができないという課題も浮き彫りになった。そこで、その「学校のまわりのよさ」理由を明らかにする中で、自分たちが今身に付けていない力を補いつつ、学習の

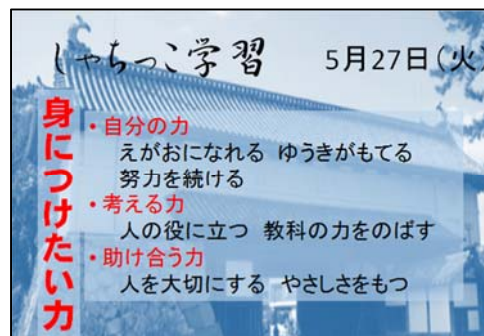


図5 児童が設定した身に付けたい力

成果としてまとめたものを、10月に行われる研究発表会で紹介しようという流れで学習を始めることとした。

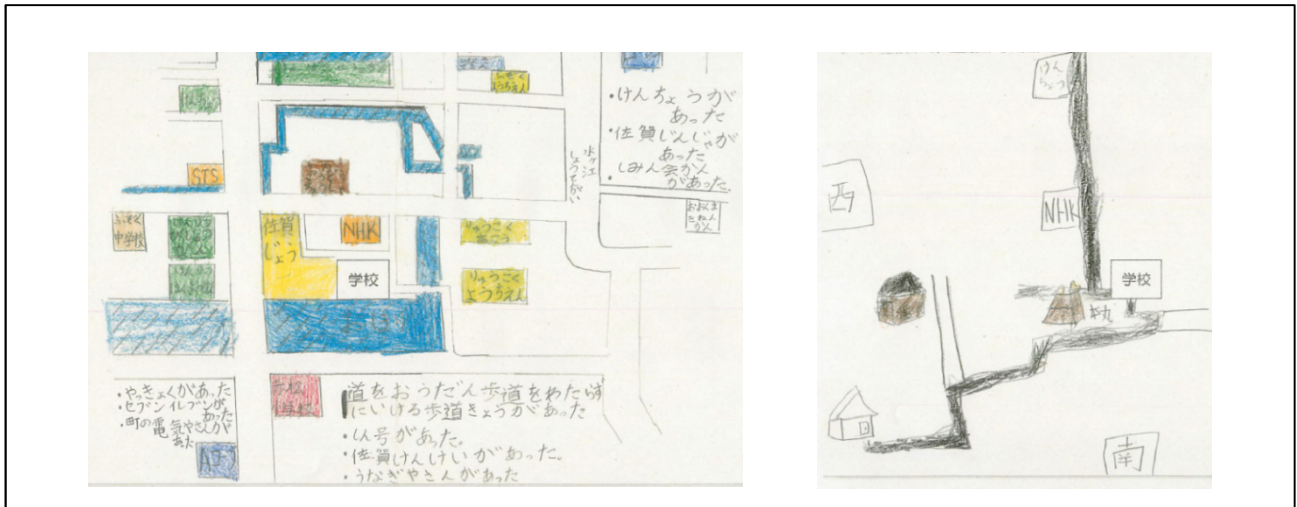


図6 総合的な学習の時間のもとにした社会科での児童作成の地図

学習するテーマが決まり、身に付けたい力が決まり、学習のスタートとゴールが決まった時点で、総合的な学習の時間での学び方について指導を行った（図7）。

しらっこ学習の学び 6月6日

・「目的」と「目ひよう」をもとにして

1. 問だい点を考える
2. その問だいをとくよそうをする
3. かいけつする計画を立てる
4. 調べる
5. けっかをせいり・ぶんせきする
6. けっかをまとめる
7. そのことが活かせないかを考える

しらっこ学習の学び方 6月6日

「目的」と「目ひよう」をもとにして	目的…自分たちがいばんやりしたいこと 目ひよう…目的のために必要なこと
もんだい点を考える	目ひようをたっせいするため、どんなことがわかれたいか？ どんなことが、かいけつされたいか？を考える。
そのもんだいをとく予想をする	問だいは、こんな答えになるんじゃないかな？ということ考えてみる。
かいけつする計画を立てる	どんなかいけつ方法があるのかをかんがえる。 考えた方法をじゅんばんづけをしてみる。
しらべる	じっさいにちようさを行う。ちようさしたことをきろくする。
せいり・ぶんせきする	ちようさしたことを、色々な方法をつかってせりりする。 そのけっから何がええるのかを考える。
けっかをまとめる	見る人にわかりやすくまとめる。 自分の言いたいことが伝わるようにまとめる。
そのことが活かせないかを考える	・断く知りたいたことはないか？ ・もっとかんたんにできないか？ ・ほかのものにしたらどうなるか？ ・生活の中に使えないか？ ・上手く使えないか？

図7 児童と整理した学び方の例

この指導の中にあっては、算数で行っている問題解決の流れをもとに、総合的な学習の時間ならではの観点を付け加えていくこととした。児童の中から出ずに、教師側から出した点としては、「せいり・ぶんせき」する点であり、それ以外の学習の流れについては、児童の側から出されたものを使うことができた。さらには、それらの学習の流れを使って、簡単な問題解決の練習を行った。児童が出した例が、図8である。このような学び方を取り上げながら、児童がこれから行っていく学習について、その方法を指導していった。

このような学習を経て、実際の紹介したい場所を焦点化させることから総合的な学習の時間の本格的な学習が始まった。まずは、調べる活動をグループで行うこととし、グループ分けを行った。グループ分けについては、次のように行った。社会での学

しらっこ学習の学び方（れい） 6月6日

「目的」と「目ひよう」をもとにして	目的…人をわらわせる方法を考える 目ひよう…クラス全員をわらわせてみる
もんだい点を考える	まずは、となりの席の友だちをわらわせるのはどうしたらいいだろう。
そのもんだいをとく予想をする	・くすぐる ・おもしろいことをいっ ・へんなかあをする ・いっしょにあそぶ
かいけつする計画を立てる	1 おもしろいことを言ってみる。2 へんなかあをする 3 くすぐる のじゅんばんでやってみる。
しらべる	じっさいにやってみる。
せいり・ぶんせきする	1 おもしろいことを言う…○ 2 へんなかあをする…× 3 くすぐる…いっしょにやられた
けっかをまとめる	けっかを見ると、おもしろいことを言うことがいっしょにわかった。
そのことが活かせないかを考える	・同いよりの友だちにおもしろいことを言うとうなるだろう。 ・どんなことが友だちにとっておもしろいことなのだろう。 ・ほかの方法はないのだろうか。

図8 学習した学び方をもとに児童が行った学習例



図11 体験活動後に各グループで整理したまとめ

これらの整理をもとにして、児童は自分たちがパンフレットの中に収める情報を精選していくこととなった。さて、この活動後、多くの児童が手書きでのパンフレットを自主的に作成していたが、作成上、それを全員に配るのは無理があるということや情報にばらつきがあることに気付いた。そこで、各グループのメンバーで協力して、情報を統一したり、役割を分担したりしてパンフレット作りに取り組むことになった。そして、そのまとめの方法として、字やイラストにばらつきが出てくることを解消するために、ワープロソフトを用いて表現するという選択を行った。より本物のパンフレットらしくということが1番のグループもあったが、グループによって、1枚のパンフレットに集約するグループ、全員が1ページずつ分担して、冊子の形でまとめているグループと分かれた。パンフレットの作成には合計3時間しか与えなかったため、児童もバタバタとした中で作成したのであるが、何とか原稿自体は作成することができた(図12)。



図12 完成したパンフレット

そのようにしてパンフレットの原稿を作成した児童は、後は製本や折り込み作業だけとなっていたのであるが、ここで問題が起きた。それは、印刷は担任が行ったが、その印刷が薄いものがあつたのである。理由は、児童が作成した原稿自体に、文字の色を変えたり、文字装飾を行ったりしたものがあつたためである。製本を予定していた時間に、印刷物を実際に手にした児童は、その字の薄さにも気づき、どうするのかを話し合っていた。結果は、製本をしたり折り曲げたりするグループと手書きするグループに分かれて活動を行うことになった(図13)。時間に間に合わないようなグループは、他のグループに手助けを頼んだり、休み時間まで行ったりする児童の姿があり、完成への意欲は高かった。



図13 2つのグループに分かれて活動する様子

このようにして完成したパンフレットは、研究発表会当日、手に取ってもらえるように4箇所設置した。研究発表会当日の朝から準備を行ったり(図14)、自分たちの公開授業前に参観者に宣伝したりするなど、どうにか手にしてもらおうという工夫をしていた。



図14 研究発表会当日朝の活動の様子

その結果を楽しみにしていた児童でもあったが、研究発表会後に見た結果は自分たちが予想した状態とかなり違っていた様子で、振り返りにおいても、それがどうしてなのかということ話し合い、どのようにしていけば良いのかという点について考える契機ともなった。

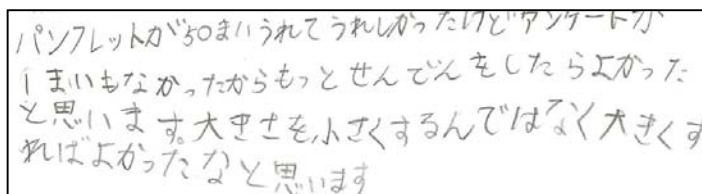
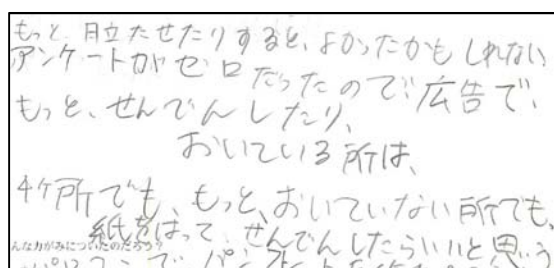
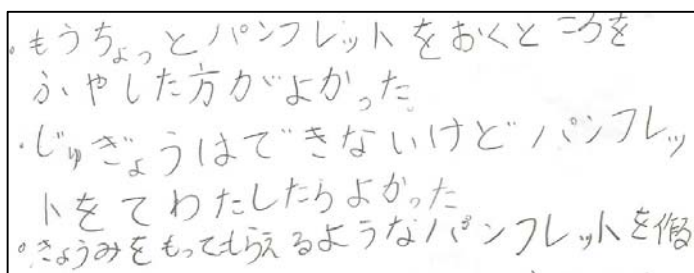
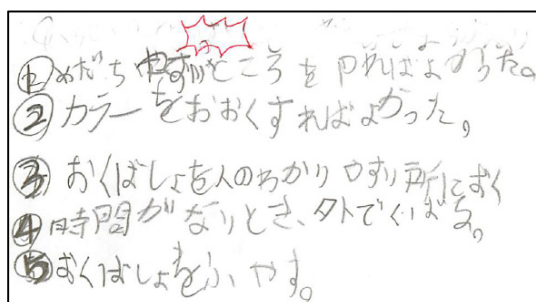


図15 アンケート作成に関するふりかえり

さらに、どんな力が身についたのかという振り返りには、次のような記述が見られた。最初に立てた「身につけたい力」と併せて書く児童や自分の考えを書く児童など様々に見られたが、記述自体にも様々なものが見られた。

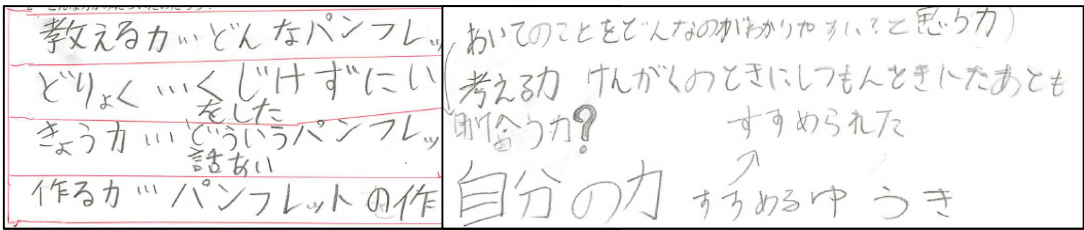


図 16 総合的な学習の時間で身につけた力（児童記述）

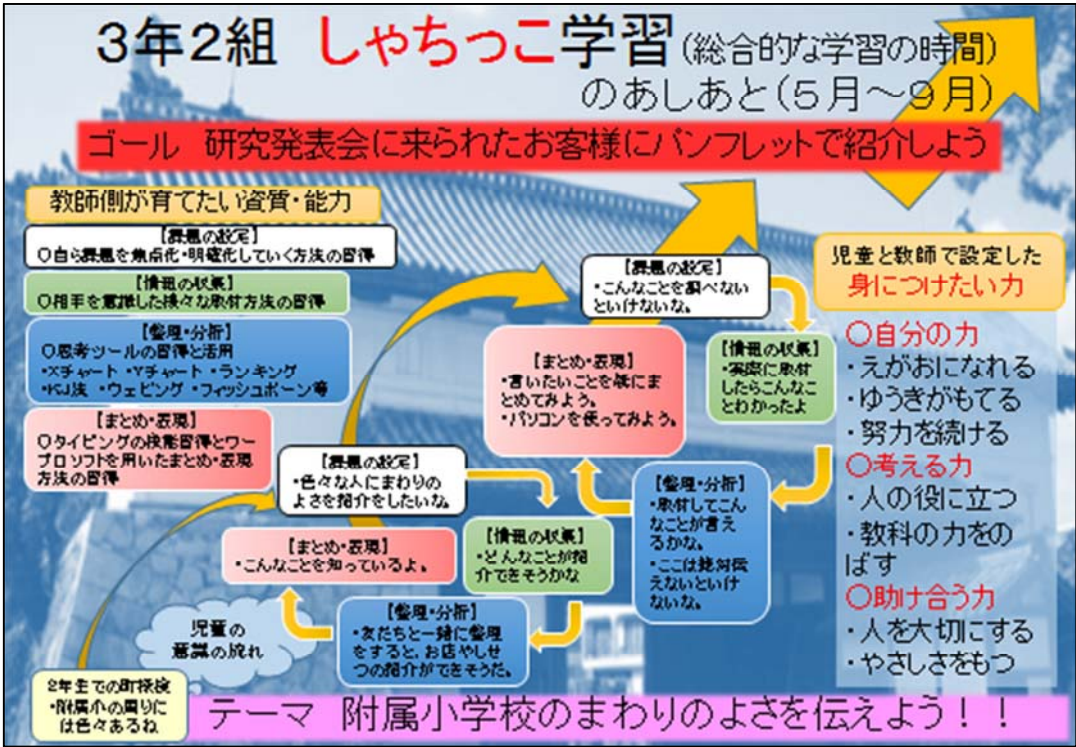


図17 単元のあしあと

最後に、単元のあしあと（図17）と実施後の時数（図18）を示す。

以上のような内容で、単元の指導を行ってきた。児童はこのような学習の流れの中で、グループでの協同的な学びと成果を得ることができていた。

総合的な学習の時間は、活動あって学びなしといった批判を受けることがある。しかし、計画の中に、児童の活動を位置づけ、その価値づけをどのように行うのかを位置づけ、その上で指導を行っていくことが肝要であることが、本実践からいえる。その上で、このような学びは総合的な学習の時間のみで創り出すことは不可能であり、他教科等とのつながりが必要である。そのつながりの一例として、情報活用能力に視点をあて、他教科・領域等とのつながりの中から見てみよう。

- (3) 他教科・領域等で育てる情報活用能力
総合的な学習の時間で用いる様々な技

単元で実施した主な活動（○数字は時数） 全35時間
オリエンテーション② 身に着けたい力の決定・学び方② パソコンの使い方② 学習内容・学習事項の確認／テーマ決定② 行きたい場所・調査計画の作成② パソコンでの調査の方法① 調査1回目②・情報の整理①・次の準備① 調査2回目②・情報の整理① （夏休み） 調査のための情報の整理① パソコンでの調査の方法① 調査3回目②・情報の整理①・次の準備① 調査4回目②・情報の整理① パンフレット作り（下書き・構想含む）⑤ パンフレットの準備② 活動のふりかえり①

図18 単元の授業数

童が表なしでも打てていた。(現在はブラインドタッチで打てる児童も10名程度いる状態である。)さらに、ローマ字での入力ができるようになった夏休み前の時点で、社会科での意見文をワープロソフトを用いて打つ経験をしたり、ワープロソフトやプレゼンテーションソフトに写真を入れる方法を学んだりし、活用の範囲を広げていった。このような操作技能と、道德でのモラル指導を通した上で、インターネットの活用へと進み、社会科での調べ学習を中心にその調べ方も身につけさせていった。逆に、インターネットでの情報に頼ることがないように、本での調査活動も経験させ、それぞれの良さに目を向ける時間を設けた。

以上のような結果、パンフレット作りの段階では、文字入力には問題がない状態で、文字の編集加工、写真の編集加工といった技術がある程度の児童が身に着けた状態で、作成に臨んでいた。計画的に課題に取り組ませることで、身に着けることができていったものと考えられる。現在の段階においてはプレゼンテーションソフトを使つての発表も経験し、その操作技能の範囲を広げている所である。

(4) 本研究の評価

「プロジェクト報告」で用いられている質問項目を援用し、児童に行ったアンケートの結果を「プロジェクト報告」と比較することによって行うこととした。その結果が次頁である。このアンケート調査は、4件法「そう思う(1) —どちらかといえばそう思う(2) —どちらかといえばそう思わない(3) —そう思わない(4)」であり、「平均点で1点に近い方が当該質問項目に肯定的に回答した率が高いことを示す。(項目39を除く)」となっている⁷。ここで先進校として示しているのは、「プロジェクト報告」で示された、トップ校の値であり、その抽出については、「総合的な学習の時間の趣旨に沿った実践を長年実施し、全国的に高い評価を得ている学校」であり、対象学年は5年生とされている。この調査結果がそのまま援用できるかどうかは学年が異なるため議論が分かれる所だと思われるが、一つの指針として比較をすると、対象クラスとの差は様々に見られたが、特に次の点があげられる。

まず、多くの項目で、「プロジェクト報告」よりも良い値を出している。これは、数字通りの解釈もできようが、学年差や意欲の面、また質問項目の内容理解という点での問題も含まれていると推察される。説明を行いながらの調査を行ったが、それでも十分であるとは言い難い。

次に、第2に、「プロジェクト報告」よりも低い項目として、「17自分は友だちにたよりにされていると思う。」、「19自分の将来について考えることがある。」、「29地域の中で自分にできることはないかと考えたことがある。」、「39総合的な学習は何を勉強しているのか分からない。」の4つがあった。これらについて分析を行うと、「17」の項目については、本単元が、友だち同士の協同的な働きが一番働いたのが、パソコン技能という面であり、そこでの操作に対して意識差が生まれていたものと推察される。実際の友だちとの関わりを問うている、「24 友だちと協力したり、一緒に考えたりすることが好きだ。」の値が、1.14とかなり高い値を示していることから、考えられる。「19」の項目については、学年が3年生ということが大きく影響しているものと思われる。「29」については、附属小学校という多地区から登校して来る児童が多い中で、地域というものの意識が難しいという、学校が抱える本質的課題が原因であると考えられる。「39」については、まだ単元が1つの題材しか扱っていない段階で、その本質的理解まで至っていないことが推察される。

番号	質問項目	対象クラス	先進校
1	日常生活や社会の中で「知りたいな」と思うことや「不思議だな、なぜだろう」と思うことがある。	1.26	1.49
2	問題になっていることの中から取り組んでみたいことを見つげることができる。	1.34	1.81
3	方法や手順を考え、課題を解決するための計画を立てることができる。	1.43	1.93
4	解決したいことを辞典や辞書を使って調べることができる。	1.57	1.77
5	解決したいことをインターネットを使って調べることができる。	1.11	1.53
6	解決したいことを電話やメール、インタビューでたずねることができる。	2.09	2.10
7	自分の課題解決に役立つかどうかを考えながら情報を集めることができる。	1.63	1.83
8	集めた情報を整理して、新しい提案や解決方法を考えることが好きだ。	1.60	2.05
9	集めた情報を比べたり、結び付けたりして、自分の考えを広げることができる。	1.46	2.01
10	文章やイラストなどで自分の考えを整理して表現することができる。	1.60	1.81
11	声の大きさや速さ、間の取り方に気を付けて発表することができる。	1.46	1.93
12	学習の仕方や進め方を振り返り、次の学習や生活に生かすことができる。	1.40	1.88
13	みんなと異なる意見でも自分の考えをはっきり伝えることができる。	1.80	2.03
14	自分とは異なる友だちの意見でも受け止め、自分の考えの参考にすることができる。	1.34	1.80
15	課題解決に向けて、根気強く学習を進めることができる。	1.49	1.92
16	失敗しても、もう一度挑戦したり最後までやりとげたりしようと思う。	1.31	1.59
17	自分は友だちにたよりにされていると思う。	2.57	2.28
18	総合的な学習で学習したことをふだんの生活に生かそうとしている。	1.49	1.77
19	自分の将来について考えることがある。	1.54	1.51
20	人の役に立てるような人になりたいと思う。	1.31	1.32
21	いろいろなことにチャレンジしたいと思う。	1.29	1.38
22	自分と異なる考えや意見でもしっかり聞いて理解しようとする。	1.43	1.64
23	友だちの伝えたいことは何かを考えながら話し合えることができる。	1.34	1.74
24	友だちと協力したり、一緒に考えたりすることが好きだ。	1.14	1.44
25	考えや意見が違って相手の良い点を認めることができる。	1.49	1.67
26	身の回りの自然や生命あるものを大切だと思う。	1.09	1.25
27	違う学級や学年の人にも気持ちよく関わることができる。	1.40	1.69
28	言葉遣いやマナーに気を付けて行動するようにしている。	1.29	1.77
29	地域の中で自分にできることはないかと考えたことがある。	2.23	2.13
30	地域の活動や行事に参加することが好きだ。	1.80	1.87
31	自分の住んでいる地域の伝統や文化、行事などについて関心がある。	1.74	1.97
32	テレビなどのニュースを見たり、新聞記事を読むのが好きだ。	1.69	1.95
33	インターネットやインターネットの情報について関心がある。	1.63	1.66
34	外国の人や文化について関心がある。	1.74	1.77
35	環境問題について関心がある。	1.60	1.77
36	障がいがある人や高齢者について関心がある。	1.77	1.95
37	総合的な学習では生きていく上で大切なことを学んでいる。	1.23	1.60
38	総合的な学習は楽しい。	1.31	1.56
39	総合的な学習は何を勉強しているのか分からない。	3.31	3.42
40	総合的な学習に一生懸命取り組んでいる。	1.46	1.58
41	教科で学習したことを生かして、総合的な学習で調べたりまとめたりしている。	1.57	1.88
42	総合的な学習では、今まであまり考えなかった問題に取り組んでいる。	1.43	1.73
43	教科の学習と総合的な学習はつながっていると感じることもある。	1.43	1.80
44	総合的な学習で学んだことは、普段の自分の生活や将来に役立つと思う。	1.34	1.59
45	家の人と総合的な学習について話すことがある。	1.66	2.08
46	総合的な学習で取り組んでいる課題について、新聞やテレビなどで見たり聞いたりしたことがある。	1.80	2.15

さらに、本実践で意図した情報活用能力の面でみると、「4解決したいことを辞典や辞書を使って調べることができる。1.57－1.77」、「5解決したいことをインターネットを使って調べることができる。

1.11-1.53」,「6解決したいことを電話やメール,インタビューでたずねることができる。2.09-2.10」,「9集めた情報を比べたり,結び付けたりして,自分の考えを広げることができる。1.46-2.01」,「10文章やイラストなどで自分の考えを整理して表現することができる。1.60-1.81」となっており,「9」の項目については,先進校との差が一番大きかった。このことから,情報活用能力を育てるという視点での指導は一定程度の効果は見られたものと推察される。

4. 考察

本研究では,通常の学校での単元に,各教科・領域等の学習内容を総合的な学習の時間の学習に活かせるように工夫し,情報活用能力という視点での工夫ができるようにするという3点をもとに実施した。

その結果,情報活用能力についての指導を計画的に行ったことで,そこでの児童の資質や能力については一定程度効果があつたものと考えられる。

さらに,情報活用能力の視点の中に取り入れていた思考ツールやパソコンの操作技能を,教科・領域においても計画的に指導していけば,3年生でも活用ができるようになるということが伺える。

最後に,「プロジェクト報告」で示されたアンケート項目を活用することで,総合的な学習の時間において児童が身に着けた資質や能力といった点が明らかになることも推察されるが,それ以上に課題が明らかになるということがいえる。本研究の対象としたクラスにおいても,先進校と比較して平均が低い質問項目については,単元内を振り返ってみるとその原因とされることを推察することができた。これは,今後の単元見直し,並びに指導改善の視点となりうるといえよう。

5. 成果と課題

本研究は,総合的な学習の時間の導入期である3年生を対象に,どのような単元計画を構成して指導すれば,「プロジェクト報告」で明らかになったような能力が身につくのかという点を明らかにすることを目的としてきた。その結果,成果としては,考察で示したような3点を明らかにすることができた。特に,「プロジェクト報告」におけるアンケートの質問項目については,総合的な学習の時間のふりかえりを行う際に有効であることが明らかにできた。

尚,本単元における児童が作ったパンフレットが,本単元で目指した資質や能力形成に対してどの程度到達したのものになっているのかについては本研究では検討していない。この点については,また別稿にて示す。

¹ 文部科学省『育成すべき資質・能力を踏まえた教育目標・内容と評価の在り方に関する検討会— 論点整理—について』2014

(http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/095/houkoku/1346321.htm)平成26年5月3日確認

² 天笠茂『新たな政治情勢と教育課程政策』日本カリキュラム学会・第25回大会課題研究資料より,2014.6.28

³ 上掲2。この中では当然ながら,この「論点整理」が文部科学省内でどのような取り扱いがあるのかということや,道徳の教科化,英語教育改革等の政治的な動き等についても言及されている。

⁴ 文部科学省「小学校学習指導要領」2010

⁵ 日本生活科・総合的な学習教育学会・総合的な学習の時間で育った力についての調査プロジェクト『総合的な学習の時間で育った力についての調査概要』日本生活科・総合的な学習教育学会第13回学会シンポジウム2014(2014.11.23)資料より

⁶ 思考ツールについては,関西大学初等部の資料を参考とした。詳しくは,関西大学初等部著『思考ツール～関大初等部式 思考力育成法〈実践編〉～』さくら社,2013等を参照のこと。

⁷ 同上掲5